

自分らしく輝く



マリッジ農業女子

PROFILE

まつもと 知恵さん

トマト農家
就農歴6年（藤岡市）

埼玉県ときがわ町出身。15年のOL経験を経て、夫の実家に就農。トマトの加工品の研究に取り組み、「とまとや」としてイベント出店。大学生と中学生の娘さんがいる。

就農によって拓けた新しい世界 楽しみながら農業の魅力を発信

加工品の研究・イベント出店が モチベーション

次世代を担う若手女性の地域リーダーとして、平成28年度「農林水産大臣政務官賞」を受賞した、松本知恵さん。藤岡市で夫・寿夫さん、寿夫さんのご両親と共にトマトのハウス栽培に取り組みながら、「とまとや」としてジュースやジャム、ドライトマトなどの加工品の研究やイベント出店にも力を入れています。

埼玉県出身の知恵さんはOL時代に寿夫さんと知り合い結婚。寿夫さんの実家がトマト農家であることは知っていましたが、自分が農業をやることになるとは思いませんでした。

次女を出産後、寿夫さんから群馬に帰って農家を継ぎたいと打ち明けられ藤岡市へ移住。寿夫さんはUターンと同時に就農。知恵さんは6年間会社員やパートとして働いたのち、39歳で就農しました。

就農した当初は、仕事を覚えるため、葉っぱを切り落としたり、誘引している紐を結び直したりと同じ作業の繰り返し。人と話すことが好きな知恵さんにとっては、苦痛だったと言います「黙々と作業していると、悶々としてしまって。どうしたら仕事が楽しくなるだろうと考えていました」

そんな時、フロントランナー養成塾で6次産業についての講義を受講したのをきっかけに、加工品に興味を持った知恵さん。「自分の力を発揮できるかもしれない」

家族に了承を得て、トマトを用いた加工品づくりをスタート。通常の作業に支障が出ないように、レシピの開発や試作など、夜の自由時間を使って取り組みました。さらに、直接消費者と触れ合える機会を作ろうと、小売りが可能なフルーツトマト、ミニトマトを栽培。色々なイベントに出店するようになりました。

「不思議なことに、イベント出店や、加工品に取り組み始めてから、